

# KADENA SKOSHI

JANUARY & FEBRUARY 2010

Vol. 16 & 17

第18航空団広報局発行

目次

ホリデーシーズンのボランティア活動  
老人ホーム「いえしま」にて  
読谷村社会福祉センターにて  
沖縄こどもの国動物園にて



## !!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。意外な発見があるかも...必見です！

## ボランティア活動に対し、沖縄市長より感謝状贈呈



第718航空機整備中隊



第353整備中隊

2009年12月11日、沖縄市立母子支援施設「レインボーハイツ」の施設移転にあたり、これまでボランティア活動で貢献してきた個人 団体に対して、東門美津子沖縄市長より感謝状の贈呈がありました。嘉手納基地から、第718航空機整備中隊と第353整備中隊が団体表彰され、各中隊司令官のブライアン・ムーア少佐とマーク・オレイリー少佐がボランティア達を代表して、感謝状を受け取りました。同中隊からのボランティア達は、清掃活動、日常生活用品の寄付、クリスマスのプレゼント、基地内行事への招待などを通じて、同施設と長い間交流を深めてきました。

第18航空団広報局



(米空軍：チャッド・ウォーレン一等兵撮影)

昨年8月に太平洋空軍司令官として就任したゲイリー・ノース大将が、2010年1月に就任後初めて嘉手納基地を訪問しました。嘉手納基地の第18航空団は第5空軍（在横田）さらに上層部の太平洋空軍（在ハワイ）に属します。ノース大将は2000年から2002年までこの嘉手納基地第18航空団司令官を務め

た経歴があります。今回の訪問中、ノース大将は航空団の部隊視察や空軍兵への訓示、また地元の方々と親睦を深めるなど視察日程を精力的にこなしました。

## ノース大将、嘉手納基地を訪問

## FORMER WING COMMANDER RETURNS TO KADENA



(米空軍：クリッキー・ベスト二等軍曹撮影)

第18航空団広報局



## 第18兵站即応中隊、老人ホーム「いえしま」を訪問

第18航空団広報局

昨年12月19日(土)、第18兵站即応中隊所属の隊員とその家族25名は伊江島にある特別養護老人ホーム「いえしま」を訪れ、ボランティア活動として施設の清掃や垣根の伐採などを行いました。クリスマスを翌週に控え、隊員の奥さんたちは手作りしたクッキーを、デイケア訪問を利用されているお年寄りへプレゼントしました。また、部隊内で資金造成をして購入したひざ掛けを入所生活をされているお年寄りへ贈りました。この訪問を企画したのは、同中隊所属のアラン・バービーナさん。実はバービーナさんは10年前にこの嘉手納基地で空軍兵として所属していた際に、老人ホーム「いえしま」を訪れて清掃をしたことがありました。退役した現在は軍属として嘉手納基地に戻り勤務しており、10年前に訪れた施設をもう一度訪問し、何かお手伝いしたいと申し出たことがこの訪問のきっかけとなりました。バービーナさんは部隊内に呼びかけ多くの人々の協力を得てこの日の訪問となりました。旅費は各自負担です。

清掃終了後、隊員とその家族全員で「ジングルベル」をお年寄りの前で歌って披露し、その後、手作りクッキーやひざ掛けを1人1人に手渡しました。デイケア訪問を利用されているお年寄りはとても元気で、その平均年齢は80歳を越します。中には102歳のおばあさんも訪問していました。施設に入所している大城シズさんと渡口ツルさんはひざ掛けのお礼にと伊江島の民謡を歌って聴かせてくれました。また、交流会に参加した92歳になるあるお年寄りは「日本とあのような戦争をした歴史があるにもかかわらず、米国人は私達日本人のために掃除をしたり贈り物をくれたり、本当に心の広い方達だね。日本人がもし同じ立場であれば、こういう事をするかはわからない」と心の内を中真京子園長に話していたそうです。中真園長はボランティアに対し「皆さんの優しさと心のこもった対応が、本当に伝わりました。ありがとうございます」と挨拶されました。伊江島から帰るフェリーの中で、隊員達や家族らは口々に「訪問できて良かった」、「また機会があれば訪れたい」と満足そうでした。



(会場での写真全て、米空軍ジェイソン・レイク二等軍曹撮影)



## Holiday Cheer カデナからの贈り物 Holiday Cheer



AT YOMITAN SHAKAI FUKUSHI CENTER

## -2009年師走、ボランティアたちの取り組み-

第18航空団広報局  
ジェイソン・レイク2等軍曹

2009年12月末、地元沖縄の皆様が幸せな年末 年始を迎えられますように、と嘉手納空軍基地では何百人というボランティアたちの様々な取り組みがありました。

年末の休暇期間中、多くの空軍兵士やその家族が、数百個のプレゼントやたくさんの食料品を沖縄の児童園や福祉施設へ寄付したり、施設の清掃などを行いました。

沖縄こどもの国動物園では、エアマン・リーダーシップ・スクールに通う約20名の空軍兵士たちが清掃活動を行ないました。

第18装備品整備中隊に所属する15名余のボランティア達は伊江島にある老人ホームを訪れ、350キロを超えるごみや排水溝にたまつた泥や枝葉などの清掃作業を行ないました。同中隊のロイ・クライン先任曹長は「今回の訪問は、私たち空軍兵士が地元沖縄に関心を持っているということを知ってもらう良い機会となりました。沖縄は、親切ですばらしい人たちばかりで、生活をする上でとてもよい場所です。私たちが空軍兵士として仕事をするうえで沖縄の人たちの協力は不可欠です。私たちの日ごろの感謝を表すための取り組みとして今回の訪問 清掃作業を計画しました。」と話しました。

12月5日、第18兵站即応中隊から約30名のボランティア達が、那覇市にある石嶺児童園の約90名の子供たちを訪問し、一人ひとりにプレゼントを贈り、サッカーとバレーボール用品を寄贈しました。

12月22日、第18兵站即応中隊から20名のボランティアが別のグループを作り、伊江島にある老人ホームで周辺の清掃やプレゼントの贈呈を行ないました。第18装備品整備中隊司令官のダグラス・ディットカソン中佐は「私たちは40枚のひざ掛け毛布と、30箱のプレゼントを高齢の入所者の方々に贈りました。このような活動を通して、私たちが地域社会のために役立つことができ、困っている人のためにお手伝いができるということを地元の人たちに知って頂けたら幸いです。」

12月19日、読谷の福祉センターで年に一度のクリスマスパーティーが開かれていきました。そのパーティーに合流したデビッド・サンダース二等軍曹は、アメリカの文化を紹介しようとサンタクロースの衣装で現れ、子供たちの笑顔を独り占めしました。パーティー会場へは、サンダース軍曹を含むボランティア数名が訪れ、150を超えるプレゼントや服、ケーキなどを届けました。これらはすべて第18医療群をはじめとする嘉手納基地内の中隊やグループから寄付されたものでした。

「今回参加できたのは偶然なんです。以前嘉手納基地内のボランティア活動で、洋服を障がいのある子供たちに届けたときに、ある女性からこのパーティーのことを耳にしました。」

「子供たちにもう何年もプレゼントを贈ることが出来ないでいる」ということを聞き、サンダース軍曹はぜひとも子供たちを喜ばせたい、ということで仲間に声をかけたそうです。

「私にも子供がいます。沖縄の子供たちにも本当のクリスマスを少しでも体験して欲しい、沖縄のために何かしたいという思いがあり、私にとって今回はすばらしい機会となりました。」と、うれしそうに話していました。

At Okinawa Kodomo no Kuni D



(清掃活動の写真全て、嘉手納基地広報局：川畠キング茜撮影)

# !!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。今月はこの方です。



REIKO ISHIDO

第18運用支援中隊

いしどう れいこ  
石堂 礼子さん



Q1. あなたの職種と業務内容を教えて下さい。

Host Aviation Resource Management Office（航空情報管理部）のFlight Record Clerk（航空記録担当者）として勤めています。ARMS（Aviation Resource Management System）という独自のデータベースを用いた、嘉手納基地配属のAircrew（航空乗員）達のキャリアデータ及び飛行業務のマネジメントを行っています。

嘉手納基地には現在、約15の中隊に配属された約900名のAircrew memberがいます。一口に“Aircrew”といってもパイロットだけではなく、ナビゲーター、落下傘兵、航空医官、搭乗看護士等、大きく分けても約25種の職種があり、その中でも将校、下士官などで細かく分けられる等、それぞれ扱い方も割り当てられる航空機も異なります。

## SpotLIGHT

全てはAir Force Instruction（AFI, 空軍指示書）と呼ばれる規定の飛行業務に則り、私達は新しく嘉手納基地に配属になったAircrew達の記録を各々の前赴任地から引き継ぎ、彼らが次の赴任地に移動になるまでの間、この規定項目を隨時確認しながら更新・管理していくのですが、この規定自体もしばしば改訂されるので、それに伴い私達もフレキシブルに対応していかなければなりません。



主な「更新・管理」作業となるのは、各Aircrewの職種やキャリア年数によってAFI内で細かく定められた規則とコードを用いてのAOと呼ばれる航空指令書の作成と発布、必要条件を満たしたAircrew memberへの飛行等級及びバッジの裁定、飛行手当への支給や停止作業、規定チェックリストに沿った各メンバーの個人飛行記録フォルダーの監査、Aircrew達の日々の健康状態の記録更新等です。



因みに、この航空指令書がないまま彼らが飛行及びジャンプ（落下傘降下）をしたり、航空医官によって健康面で飛行業務の停止が必要と診断された期間の飛行／ジャンプは違法行為と見なされます。



Q2. この職場に勤めてどのくらいですか？

12月でちょうど4年目になりました。

Q3. どのようなところにやりがいを感じますか？



何らかのアクシデントで以前の記録を紛失してしまったAircrewも中にはいるのですが、AFPC（空軍人事センター）と連携して個人飛行記録フォルダーを復元することもあります。この作業は非常に緻密で困難なのですが、復元できた時はメンバー自身も大変喜ばれますし、私達も非常に達成感があります。

SpotLIGHT  
SpotLIGHT

（インタビュー次ページへ続く）

!!!! 今月の SpotLIGHT



#### Q4. この仕事で困難なところは？

私達の職場では私以外は全員軍人のため、演習等の際にはオフィスには自分しかいないこともしばしばあり、普段8名で分担している業務を全て1人でこなさなければなりません。

カスタマーサービスと平行して各飛行中隊及び世界中に広がる米国空軍基地の110以上あるHARM Officeからの問い合わせにも対応しなければならないので、かなり大変です。

軍人からの質問に答える場合でも、単に「ダメ」というだけではなく「どのAFIの規定項目に則ってダメなのか」を説明しなければ納得してはもらえないで、常に引っ張り出せるようにしておくことも大切です。ミリタリー特有の略語(Acronym)もかなり使用頻度が高く、覚えるのが大変です。

#### Q5. 米国人と仕事をする上で気をついていること、または気づいたことは？

気をつけているのは、本中隊では自分以外はみなアメリカ人ということで、自分の言動1つによって日本人に対するイメージがよくも悪くも変わることがある為、日本人として恥ずかしくない言動を心がけるようにしています。

#### Q6. 米軍基地で働くようになって驚いたことは？

職場で使用していない部屋や電子機器の電気を消している自分を見て、ある軍人に「何してるの？」と訊かれ…その後も何度も別の人から同じような質問を受け、どうやら思いやり予算の存在自体を知らない軍人がいるという事実にちょっとショックを受けました。以来、折に触れて説明させて頂いています(笑)

#### Q7. 同じ職種に就こうと考えている方へアドバイスは？

軍用機などに予備知識、向上心のあるJASDAF（航空自衛隊）出身の方だと馴染みやすいかもしれませんね。英語力に関しては当時の募集要項にはLAD-2（レベル2）と記載されていましたが、AFIを読みこなせてきちんとした文章が書けることが必須となるので、2ではキツイかもしれません。先ほども申し上げたように1人で全てを任される状況にあかれることもしばしばありますので、指示がなくても自発的にマルチタスクをこなせることが望されます。



SpotLIGHT  
SpotLIGHT